

■太田徳三郎 陸軍軍人。工廠提理として兵器製造に尽力、特に火砲製造に貢献した。

おおたとくさぶろう

北斎没・・・1849＝ 安芸国広島比字山で、田中庫三の長子に生まれる。

幼少時に親戚の太田與右衛門の跡を継ぐ。

ペリー来航・1853＝ 4歳：

五ヶ国条約・1858＝ 9歳：

桜田門外変・1860＝11歳：

浮組隊に於いて小銃大砲の使用法を学び、植木直之進や高木忠次郎に漢学を習い、

薩摩藩士密航1865＝16歳：江戸に出て開成所でフランス語を学ぶとともに、市川齋の家塾で佛学を研究する。横浜、神戸に遊学の後、

大政奉還・・・1867＝18歳：

明治維新・・・1868＝19歳：藩命によりフランスに留学、維新後、

廃藩置県・・・1871＝22歳：陸軍生徒を命ぜられて、兵学を修め、

明治6年政変 1873＝24歳：

初の民間工場1875＝26歳：帰朝後、陸軍七等出仕となり、士官学校教官に補される。

三つの反乱・1876＝27歳：*砲兵廠附、参謀局第3課出仕となり

西南戦争・・・1877＝28歳：陸軍大尉に任ぜられ砲兵支廠附となり、砲兵支廠鍛工所監務に補され、

大久保暗殺・1878＝29歳：砲兵支廠木工所監務を兼勤。

琉球処分・・・1879＝30歳：大阪砲兵工廠製車所監務、

・・・1880＝31歳：製砲所附に転じ、

明治14年政変1881＝32歳：大砲制式取調委員を務めた。軍事視察の為欧州に渡り

新体詩抄・・・1882＝33歳：帰朝、陸軍少佐昇任とともに、_大阪砲兵工廠御用掛を命ぜられた。

秩父事件・・・1884＝35歳：砲兵教練書取調委員を命ぜられ、

内閣発足・・・1885＝36歳：*砲兵局に転じ、砲兵会議御用掛を兼勤、砲兵会議議員に補し、

帝国大学始・1886＝37歳：鳥尾小彌太の欧州派遣に随行を命ぜられ、

国民之友始・1887＝38歳：帰朝。_砲兵会議模範掛に補され

初の対等条約1888＝39歳：小口径連発銃制式審査委員、_砲兵会議事務官兼任を経て、陸軍中佐に進み、砲兵第1方面提理に転任。

帝国憲法発布1889＝40歳：_要塞砲兵幹部練習所長、大阪砲兵工廠提理を歴任し、

大本教・・・1892＝43歳：_陸軍大佐に進み、砲兵会議臨時議員を命ぜられ、また野戦砲改良審査にも関わった。

日清戦争始・1894＝45歳：*日清戦争では第4師団に属し後方勤務を命ぜられ、兵器弾薬の制作、修理を管理のため国内を駆け回り、

日清戦争終・1895＝46歳：功績により功四級に叙された。戦後も大阪砲兵工廠提理の職にあり、

八幡製鉄始・1897＝48歳：_陸軍少将に進み

教科書疑獄・1902＝53歳：*陸軍中将進級とともに予備役編入となり、

日比谷公園・1903＝54歳：

日露戦争始・1904＝55歳：_日露戦争の最中に、病没した。